

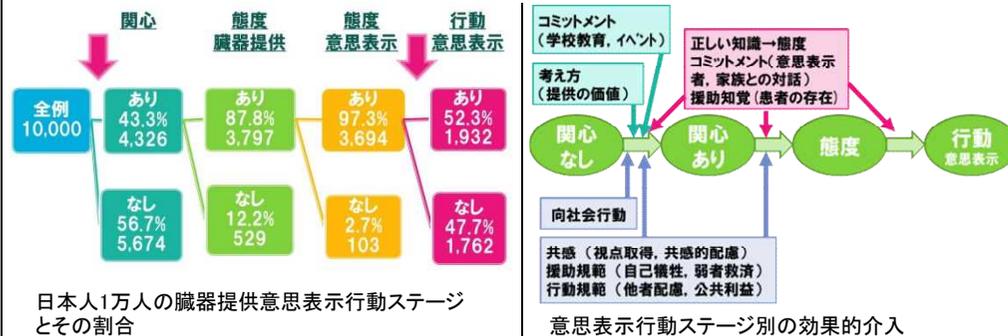
# 斬新な組合せで化学反応が広がる！

同志社大学提供  
作成日 2016年2月26日  
更新日 2017年3月6日

	<b>研究者氏名</b> うりゆうはら ようこ 瓜生原 葉子	<b>所属機関</b> 同志社大学商学部	<b>関連キーワード(複数可)</b> 移植医療, 意思表示, 社会価値, 実証研究, ソーシャルマーケティング, 非営利組織
	<b>主な研究テーマ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 移植医療の社会価値とは何か？</li> <li>● 臓器提供意思表示について、どうしたら人々が関心を持ち、態度を決め、表示欄に記入するのか？</li> <li>● 「意思表示があたりまえの社会」をどのように構築すればよいのか？</li> </ul>	<b>主な採択課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基盤研究(C)平成25～27年度(配分総額:5,070千円)</li> <li>課題名「移植医療の社会価値の普及に関する実証研究」</li> </ul>	

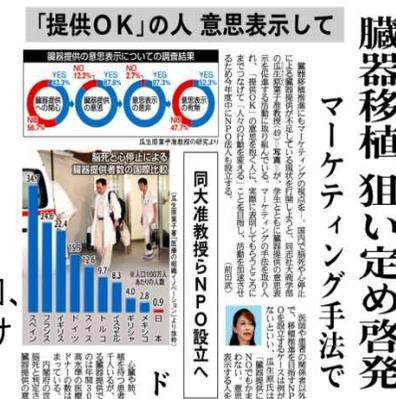
## ① 科研費による研究成果

- 臓器提供不足に起因する治療機会の逸失は、深刻な社会的問題の一つである。しかし、日本国民の意思表示率は12.6%(内閣府調査2013年)と低迷している。問題解決に不可欠な臓器提供意思表示率の向上にむけて、人々の意思表示行動メカニズムと効果的な介入を明らかにしたいと考えた。
- 日本人1万例の実証分析から、臓器提供意思表示に関する行動ステージを明らかにし(下図左、世界初)、定性、および定量分析結果から、行動変容に必要な介入を理論的に明らかにした(下図右)。
- これらを実証する場として、研究室(学部生ゼミ)で非営利任意組織「Share Your Value Project」(<https://www.facebook.com/shareyourvalue/>)を創設した。ターゲット別の介入手法を論理的に導出し、大学生と共に社会に向けて実装し、その測定結果から、新たなポートフォリオマネジメント(仮説)を導出した。
- 新たなポートフォリオマネジメントを用いて介入した大学生の意思表示率は、100%となった。



## ② 当初予想していなかった意外な展開

- 「Share Your Value Project」の活動が注目され、多様な立場の方から支援を受け、活動の輪が広がっている。
- 商学部が移植医療の問題解決に取り組んでいること、マーケティング手法で移植医療問題の解決に挑戦している斬新性からメディアに注目され、新聞記事10本、TV放映1回、大学公式FBによる発信2回、他のメディア取材を6回受けけるに至った。



## ③ 今後期待される波及効果、社会への還元など

- 現在開発している、大学生、社会貢献意識が高い人など多様なターゲット別の介入手法が、標準化され普及することで、国内の意思表示者が増加。その結果、日本の臓器提供数が増加し、ドナー不足に起因する患者の治療機会の逸失という社会問題の解決に寄与できる。
- 社会が抱える様々な問題に対し、関心をもたせ行動に働きかける行動変容を促す普遍的理論へと発展できる。